山梨県コンクール　三部　優秀賞

　「私の田んぼ」

北杜市立甲陵中学校一年

　　　　　　　　　　　　　　　野澤　陽々葵

　みなさんは、自分が好きなこと、好きな場所、落ち着くところなどあるだろうか。私は、小さいときから田んぼで過ごすのが好きだ。

　私の家では、私が産まれる前から米を作っている。田んぼは私の遊び場、心を休める場所である。小さい頃から土手のシロツメクサでかんむりを作ったり、カエルやバッタと追いかけっこをしたり、兄弟でどろだんごを作って投げて遊んだりなど、私が自然を好きになったきっかけも、「田んぼ」にずっといたからだった。その中でも、特に一番好きだったのは稲刈りと脱穀だ。この二つはわらを使うため、花粉症の私にとって、地獄のようにつらかったが、それ以上に楽しかったからだ。束ねられたわらで車をつくってドライブしたり、迷路をつくって鬼ごっこをしたり、雨が降っていた年は、雨宿りをするための宿をつくったりなどしていた。この思い出は全部記憶に残っていて、その時期になるといつも懐かしみを感じる。

　そして私も、小学校高学年になってから、作業を手伝うようになる。最初はたびをはくのに苦戦したり、田植えのとき、バランスを崩してしまい、尻餅をついて泥だらけになることがたくさんあった。しかし、経験を重ねていくにつれて、尻餅をつかなくなったり、一列だったものを二列、三列と一回にやる量を増やしてもできるようになった。また、稲刈りや脱穀でも、うまかけ用のうまやパイプを出したり、片付けたり、わらを束ねたりもするようになった。年数を重ねていくと、自分が成長していることを実感した。

　また、田んぼや行事のとき、私はもう一つの楽しみがある。それは、親戚と会うことだ。田植えや稲刈りのとき、親戚が手伝いにくる。多いときは五、六人きて十何人で作業するときもあり、半日で終わることもあった。そのときに、再従兄弟と遊んだり、伯母や母の従兄弟と話したりなど、そんな風にたくさんの人と過ごすのもとても楽しい時間だ。これも好きになる理由の一つだ。

　しかし、ここ二、三年間はそれができていない。新型コロナウィルス感染症防止のため、年々人を減らし、コロナウィルスに集団で感染しないようにしている。そして今年、三回目のコロナ禍での田植え、草取りは、家族だけで行った。例年より時間がかかり、一人一人の作業の量がとてつもなく多く、大変だった。さらに、人数が少なかったため、とても静かで、いつ話しているときの盛り上がりもなく、とても寂しかった。しかし、去年育ったお米をつくるのにどれだけの手間をかけているのかを実感した。また、やはり自分の手間をかけるものは美味しくなると思った。まだ、このコロナ禍がこれからどうなるのか分からないが、稲刈り、脱穀があるが、より美味しいお米がたくさんできるように、一人前の大人くらい動いて頑張りたい。

最後に、私は、この作文を書いて、改めて田んぼとお米、自然が大好きだと思い直すことができた。中学生になってから、部活や勉強でほとんど田んぼに行けていない。田植えや稲刈りがないときでも、時々田んぼに行ってみたいと思う。そしてまた、田んぼで虫をみながら観察をしたり、稲がどれくらい成長しているか、見に行って、昔の懐かしさを思い出したり、心を休めたりしたい。こんな身近に田んぼがあること、お米を自分達で作れることに誇りをもって生きていきたい。